

就職までの道のり

～就労移行支援を通して～

平成十六年に足羽ワークセンターを終了された宮腰繁徳さんは、今年の五月一日に、同法人の介護老人福祉施設足羽利生苑に就職が決まりました。

今回は就職までのワークセンターの取り組みと、障害者就労の専門機関である、福井障害者職業センターからのお話を紹介します。

現在、障害のある方が就職する際、その職場に適應していくために、障害者職業センターのジョブコーチ制度を利用

用される方が増えています。

宮腰さんもジョブコーチを利用されましたが、よりスムーズにジョブコーチ支援に移行できるように、ワークセンター独自で約二ヶ月間事前支援を行ないました。今までの作業支援を通して、複数の作業をこなすことによる混乱、本人を受けとめる人間関係作りが不可欠と考えたからです。

実習に入るにあたり、本人が担う仕事の整理とサポートをさせていた。だく職員を選定しました。利生苑との打合せで本人の能力を考慮し、用務員として洗濯やシーツ交換、トイレ掃除などが挙げられました。また、サポート役には現場の上司と、本人が話しやすい職員が選ばれました。

仕事の内容を覚えるのはもちろんですが、仕事には一日の流れと時間や回数が決まっています、それをこなすのは困難なことでした。以前従事し

宮腰さん ひとりのとき
出勤 (1)
エプロン確認 (2)
ゴミだし (4)
かしつき (3)
水入れ (5)
AM10:30 朝礼 (3)
入浴準備 (5)
エプロン確認 (2)
ゴミすて (4)
シーツ交換 (5)
食事のあとかたづけ (6)

宮腰さんの一日のお仕事(一部)



洗濯物たたくみは利生苑No.1です

ていた施設外授産では職員の声かけや、確認がありました。が、実習では単独で動かなければなりません。

そこで目で見て分かるように、一日の流れと時間、内容を記したカードを作成しました。自分でカードを見ながら、次は何をすればいいのか確認して行動していました。また、こまった時にはサポート役の職員に話しいけるようになりました。しかし、時間をみながらの行動ができないという課題を残してジョブコーチの方へ移行しました。

ジョブコーチ支援では事前支援の内容をふまえ、なお一層の職務遂行、困ったときの対応、対人関係でのふるまい方を場面に応じて定着を図っていただきました。また課題の時間による行動は、タイマー

を導入し、自らセツトすることで、次の仕事に移行しやすくなったようです。このような取組みを通して無事に就職が決まりました。

今回は本人、事業所、職業センター、ワークセンターが密接につながりあったからこそ、就労に結びつくことができました。今後、就労移行に当たっては利用者の方一人ひとりの特性を生かした支援を行い、サポート体制を構築し、一人でも多くの利用者の方が就職していけるよう努力していきたいと思えます。

ぼくのかまな仕事は、洗濯と清掃、それとシーツ交換です。かとしよりの人に「ありがとう」と声をかけてもらうと、とてもうれしい気持ちになります。

これからは健康に気をつけて、一生けん命がんばります。よろしくお願ひします。

宮腰 繁徳

*ジョブコーチ
障害のある方と一緒に現場に入り、作業遂行上の援助や安定した職業生活の支援を行う専門スタッフ

※宮腰さんの就労に関して支援していただいた福井障害者職業センターのジョブコーチにお話を伺いました。

Q ジョブコーチ支援にあたって意識したポイントは何ですか？

A 今回のケースはさまざまな関係者が本人を支える体制作りがされていて支援がしやすかったです。具体的にはポイントを絞った無理のない職務の整理、職務以前に本人との良好な関係構築、何かあった場合のフォロー体制がありました。

Q 支援ポイントは視覚的情報を活用し、本人にとって理解しやすい、振り返りのしやすい支援を心がけました。

Q 本人さんへメッセージを頂けますか？

A やはり就労したいと言う強い気持ちがあったからこそ、就職できたと思います。今後も、元気に明るくお仕事頑張ってください。